

ゴンドラ

No.19

開館 30 周年を迎えて

当館は平成 4 年（1992）11 月 7 日に開館し、令和 4 年（2022）11 月で 30 周年となりました。柏原市の歴史、民俗等に関する資料を収集・保管・展示することを目的としていますが、それだけでなく史跡高井田横穴公園に隣接することから、高井田横穴の保存・公開も目的の一つとなっています。常設展示は柏原の歴史を縄文時代から順に紹介する通史展示です。企画展は柏原市に関連する展示を年 4 回実施しており、秋は「大和川の付け替え」、冬は民具の展示を開催しています。展示以外にも講演会や各種の講座、体験教室などを実施しています。

令和 4 年 11 月 6 日には、「開館 30 周年記念シンポジウム」を実施しました。「30 年を振り返って」を館長が報告したあと、堺女子短期大学名誉学長・名誉教授の塚口義信先生に「謎の竹原井離宮を探し求めて」のタイトルで記念講演をいただきました。塚口先生は当館の旧館開館時からご指導いただき、柏原に関連する研究も数多くされています。その後、学芸員全員で主な調査・研究成果について語り合うというシンポジウムでした。多くの方から暖かい言葉をかけていただき、うれしい限りです。

これまで 30 年間「柏原市のため、市民のための資料館」をめざし、柏原の歴史をわかりやすく伝え、楽しく学べるように努力してきました。おかげで多くの市民から「資料館があって良かった」というお言葉をかけていただき、他市からの来館者には「ここの資料館の展示はわかりやすい」とお声をかけていただけるようになりました。これからも、市民に愛される資料館をめざしていききたいと思います。



塚口先生の記念講演



館長・学芸員による対談

企画展のご案内

◎令和4年度春季企画展「百済の王族が眠る？高井田山古墳」

令和5年3月25日～6月11日

史跡高井田横穴公園内にある高井田山古墳は、火熨斗^{ひのし}の出土によってよく知られています。この古墳には、朝鮮半島の百済の王族が埋葬されていたと考えられています。

お知らせ

◎講座

館長と学ぶ河内の古道講座

当館 安村俊史館長による河内の古道についての講座です。

◆毎月 第4土曜日（会場：当館 研修室、参加費：200円、定員：80名、先着順）

※各回の内容については、ホームページ、広報などでお知らせいたします。

◎オンラインイベント

ビジュアルヒストリーガイド in 柏原【参加費：無料、申込み：不要】

市内の遺跡の様子をリポーターが現地から中継し、学芸員が資料館にて遺跡や出土資料の解説をします。パソコンやスマホさえあれば、ご自宅やお好きな場所から、誰でも自由にご参加いただけます。

◆毎月（3・4・12月を除く）最終月曜日 14:00～15:00

【参加方法】

①あらかじめ右の2次元コードを読み込み、ZOOMをダウンロード、およびインストールしておいてください。

②開始10分前になりましたら、再度、2次元コードを読み込んでください。

※ZOOM利用時の通信料は、各参加者のご負担となります。ご参加に際しては、Wi-Fi環境下での通信をお勧めいたします。



刊行物

- ・山崎家文書目録Ⅰ〔柏原市古文書調査報告書第17集〕500円…本市大県の山崎家ご所蔵の文書資料の調査報告書です。明治時代のぶどうづくりなどに関する重要な史料を収録しています。
- ・『柏原市立歴史資料館 館報34号』500円…令和4年度の当館活動報告のほか、調査・研究報告として、河内一浩氏による「柏原市立歴史資料館館蔵品からの検討（3）平尾山古墳群出土の円筒形埴輪」、および「高井田横穴にみる家屋模倣」、榊谷政則氏による「平野に残る『山荘逸作翁生前頌徳碑』」、当館館長による「築留一番樋と大和川の付け替え」、越智勇介学芸員による「『柏原船』由緒書について」の5本を収録しています。

企画展を終えて

★令和3年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たちーくらしのなかの布ー」

令和4年1月4日～3月6日 見学者数 1,424 人（個人 1,078 人、団体 346 人）

★令和3年度春季企画展「聖徳太子の伝説と真実ー柏原・王寺・三郷の道と寺ー」

令和4年3月26日～6月12日 見学者数 2,139 人（個人 1,863 人、団体 276 人）

★令和4年度夏季企画展

「史跡誕生 100 年ー高井田横穴と松岳山古墳ー」

令和4年7月2日～8月31日

見学者数 1,253 人（個人 1,130 人、団体 123 人）

★令和4年度秋季企画展

「大和川のつけかえ ほんとうの理由は？」

令和4年9月13日～12月5日

見学者数 7,766 人（個人 1,760 人、団体 6,006 人）



夏季企画展のようす

学芸員紹介

今年度から柏原市立歴史資料館で考古学担当の学芸員として勤務している黒田和希と申します。

普段は、資料館の業務だけでなく埋蔵文化財の調査や資料の整理などを行っています。専門は古墳時代、特に単体の鈴や鈴がついた製品の意義、そして製品がどのように広がっていったかという研究をこれまで行ってきました。

残念ながら、柏原市では高井田横穴群で見つかった鈴付高坏という土器以外に鈴に関する資料は見つかっておりませんが、古墳や横穴墓、そしてそれ以外にも多くの遺跡が柏原市にはありますので、それらを基にまた新しい研究ができればと思っています。

まだまだ若輩者ではありますが、柏原市の文化財を大切に守りつつしっかりと活用していくこと、皆さまに関心を持ってもらえるような展示をすること、を目標に頑張ってまいりますのでよろしく願いいたします。



平尾山古墳群での調査

韓国・漢城百済博物館との歩みがはじまる

2022年5月、一通の文書が当館に届きました。差出は大韓民国ソウル市にある漢城百済博物館^{ハンソンベクテ}からで、内容は2022年が同館の開館10周年という節目の年にあたり、歴史的に百済と最もつながりのある日本との交流事業を今後積極的に進めていきたい。そのために学術研究や展示などで相互の協力を希望しており、まずは意見交換のために柏原市立歴史資料館へ表敬訪問したい、というものでした。実はこれよりも前に、同館から意向を伺う電話があり、その正式な文書が送られてきたのです。

漢城百済博物館は、ソウル駅から地下鉄で50分ほどの場所にあり、館の名称のとおり百済の王都が漢城（現ソウル）にあった時代（4世紀?～475年）を中心に、当時の城壁の巨大模型や発掘調査で見つかった土器や鉄製品など、豊富な資料が展示されています。当館に隣接する高井田山古墳は、5世紀後半の築造と漢城の時代に近く、見つかった火^ひ熨^の斗^しが示すとおり、被葬者が百済と関係のある人物なのは間違いありません。漢城百済博物館の関係者も、韓国と日本を結ぶ重要な古墳、資料として注目したのでしょう。当館館長、学芸員のほか、市役所内でも協議し、柏原市としてもぜひ前向きに交流を進めていこう、という意見でまとまり、その旨の文書をこちらからもお送りしました。

訪問は11月24日に実現し、漢城百済博物館館長の俞炳夏氏^{ユビョンハ}、同館展示企画課学芸研究士の崔忠基氏^{チュチュンギ}、通訳担当で韓国の大学教員である朱洪奎氏^{チュホンキュ}の3名が来られました。市役所にて市長、副市長、教育長、館長が出迎え、今回の訪問の目的や今後の交流について意見を交わし、その後、当館、高井田横穴、高井田山古墳、松岳山古墳を見学しました。

後日、メールにてお礼とともに、次はぜひソウルへお越しください、というご連絡をいただきました。当館としても、館長、学芸員が韓国へ渡り、展示だけに限らず、幅広い分野・世代にわたって交流できるよう進めていきたいと思います。



市役所にて記念撮影
(左から：新子教育長、安村館長、松井副市長、
富宅市長、俞館長、崔学芸研究士、朱氏)

ひとこと

亀の瀬トンネルでのプロジェクションマッピングの実施を契機として、いささか、柏原市に注目があたる今日この頃です。新型コロナウイルス禍もようやく落ち着き、各地を訪れる観光客の数も回復しつつあります。この機を逃さず、柏原の豊かな歴史を積極的にPRしていきたいところです。(U.O.)



ホームページ2次元コード

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日は開館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL：072-976-3430